

## 令和5年度 かほく市立外日角小学校 学校評価計画

重点目標	取組内容	担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 確かな学力の育成と授業力向上	① 学習規律、基礎基本の定着・習熟を図る	学習指導部	教師や他の児童の話を最後まで聞くようとする姿勢の弱い児童が見られる。	【努力指標】 話す人の方を見て最後まで話を聞いている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員・児童対象に調査
	② 「ねらいを達成する授業後半の深い学びを充実させる」ため授業力の向上を図る★	学習指導部	他の児童の考えを聞いて自分の考えを再考したり、考えを練り上げたりする力が弱い。自分の考えの変容を感じている児童も多くない。	【努力指標】 深めの発問（切り返しや問い返しの発問）の準備をして実践している。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員・児童対象に調査
	③ 学習意欲が持続する指導の工夫を図る	学習指導部	「やってみたい」「考えたい」という学習意欲には個人差があり、授業後半まで意欲を持続できない児童もいる。また自分の考えをもつことが難しい児童も各クラスに若干名ずつみられる。	【成果指標】 解決したくなる課題設定の工夫や課題解決を見通すための手立てを行っている。	一日の授業で、 A：3時限以上できている B：2時限以上できている C：1時限以上できている D：ほとんどできていない	A+Bが80%未満の場合、学年研やブロック研で取組を検討する。	7月、12月に教員・児童対象に調査
	④ 家庭学習の定着・習慣化を図る	学習指導部	学年に応じた家庭学習の指導の継続により、宿題の提出率はよくなってきている。個別指導が必要な児童は複数いる。	【成果指標】 宿題の提出率が90%以上である。	A：90%以上の児童ができる B：70%以上の児童ができる C：50%以上の児童ができる D：50%未満の児童ができる	A+Bが70%未満の場合、取組の検討・改善をする	7月、12月に教員・児童・保護者対象に調査
	⑤ 学習場面に応じた1人1台端末の有効的な活用に努める	学習指導部	授業のねらいを達成するための、ICT端末・機器の積極的な活用はできてきたので、効果的な活用を押し進めていく。	【努力指標】 クロムブックを使った効果的な活用を行っている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A+Bが70%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員・児童対象に調査
	⑥ 学校で読書する習慣を身に付ける	学習指導部	低学年は、図書館に楽しんで通う姿が見られるが、高学年になると進んで読書をする児童が少なくなる傾向がある。	【成果指標】 週に1回図書館を利用する児童が80%以上である。	A：80%以上の児童があてはまる B：70%以上の児童があてはまる C：60%以上の児童があてはまる D：50%以上の児童があてはまる	A+Bが70%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員・児童対象に調査
じ2 未然防止・早期対応	① 気持ちのよい挨拶、時と場に応じた言葉遣いができる	生徒指導部	玄関での朝のあいさつは少しずつ元気になっているが、安全ボランティアや来校者へのあいさつを進んでできる児童が少ない。	【努力指標】 自分から進んであいさつをしている。	A：90%以上いる B：80%以上いる C：70%以上いる D：70%未満いる	A+Bが70%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に児童・保護者対象に調査
	② 自己肯定感、自己有用感を高める★	生徒指導部	自己肯定感が低く、学校が楽しくない(C,D)と感じている児童が約11%いる。	【満足度指標】 児童が学校が楽しいと感じている。	「学校は楽しいですか(楽しいと言っている)」に対して、AもしくはBと答えた児童・保護者が A：90%以上いる B：85%以上いる C：70%以上いる D：70%未満いる	B以下の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に児童・保護者対象に調査

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
2 自己有用感の育成 ・防止・早期対応 ・不登校・問題行動の未	③ 「考え、議論する道徳」を意識した授業改善の工夫	学習指導部	学校行事や体験活動等との関連を図ったり、道徳の教科書をもとに、いしかわ版道徳教材やGTを活用したりして、個々の児童が、思いやりの心を持ったり、夢や目標を持ったりするように、共通実践を蓄積する必要がある。また、規範意識の向上も必要である。	【成果指標】 道徳授業の工夫をする。 ア 導入の工夫 イ 道徳の教科書、いしかわ道徳教材やGTの活用 ウ 中心発問の吟味 エ 道徳掲示の蓄積 オ 体験活動との連動	道徳の授業で A：3項目以上に取り組んだ B：2項目以上に取り組んだ C：1項目以上に取り組んだ D：取り組めなかった	A+Bが70%未満の場合、授業のあり方について検討・改善をする。	7月12月に教員対象に調査
	④ 児童の心身状態についての情報収集・共通理解★	生徒指導部	「いじめは絶対にいけない」と思っていない児童が3.6%いる。	【成果指標】 児童が「いじめはどんな理由があってもいけない」と感じている。	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、Aと答えた児童が A：95%以上いる B：90%以上いる C：80%以上いる D：80%未満いる	B以下の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に児童対象に調査
	⑤ 特別支援教育校内委員会の機能化★	生徒指導部	個別に支援を必要としている児童割合が高い。	【努力指標】 児童理解の会や学年会、終礼等で、児童の実態把握や問題の早期対応に努めている。また、必要に応じて外部機関とも連携している。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員対象に調査
	⑥ 児童が主体的に活動できる場を設定すると共に、集団の中で協力する心や他を思いやる心を育てる	特別活動部	なかよしグループ活動には、楽しく参加しているが、協力し合ったり、助け合ったりする関係が十分にできているとは言えない。	【努力指標】 なかよしグループ活動に自分から進んで活動に参加し、楽しむことができる。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A+Bが70%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員・児童・保護者対象に調査
3 児童の体力の向上と健康・安全教育の推進	① 「体力アップ1校1プラン」をもとに、全校で体力アップを図る「スポチャレいしかわ」の積極的な参加	特別活動部	休憩時間に体を動かしている児童は多いが、運動能力調査の結果に反映されるまでには至っていない。また、運動を好まない児童もいる。	【成果指標】 マラソンやなわとびチャレンジカード等に意欲的に取り組み、体力・運動能力の向上が見られる。	「進んで体を動かしていますか」に対して、AもしくはBと答えた児童が A：90%以上いる B：70%以上いる C：50%以上いる D：50%未満いる	A+Bが70%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員・児童対象に調査
	② 避難訓練実施を含め、危険予測能力、事故回避能力などを育成する	保健安全指導部	登校時の交差点の渡り方や下校時の道路の歩き方にまだまだ不安がみられる。	【成果指標】 交通ルールを守って道路を歩くことができる。また、非常時において避難の仕方が分かる。	「歩き方や自転車の乗り方に気を付けていますか（交通事故から身を守る習慣が身につけている）」に対して、AもしくはBと答えた児童・保護者が A：90%以上いる B：80%以上いる C：70%以上いる D：70%未満いる	児童保護者評価とともにA+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に児童・保護者対象に調査
4 家庭・地域との連携	① 各種便りやホームページ等での情報発信の充実	情報担当	様子や取組を更新している学年と更新していない学年の差が大きい。	【成果指標】 定期的にホームページを更新する。	A：毎週更新している B：隔週で更新している C：月1回で更新している D：一月以上更新していない	C以下の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員・保護者対象に調査
	② 保護者への「報・連・相」	管理職	学校生活で気になることや児童同士でのトラブルなどを保護者へ丁寧に連絡している。気になることは必ず保護者へ連絡することを継続する。	【努力指標】 児童の気になることに対して保護者への電話、面談、訪問など速やかな対応を行っている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A+Bが90%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員に調査

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
5 教職員の 材の育成 働き方 改革と人	① 教職員が担うべき業務に専念できる環境を確保 教材研究や学年会の時間を確保	管理職	超過勤務はやむをえないという意識から、ワークライフバランスや適正な勤務時間のさらなる意識向上が必要である。	【努力指標】 週2回以上19時30分までに退校している。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	C以下の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員に調査
	② 研修の充実★ 若手主体で取り組む若プロ	教務部	担当としての研修会や都市教育課程研修会の参加のみになっている教職員が少ない。	【努力指標】 主体的に研修会に参加したり、月に1度は他の教師の授業を参観し意見交流をしたりする。	A：よくできた B：おおむねできた C：どちらかといえばできない D：できない	A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員に調査
ラ6 ムカ ンマ カト ネリ ジキ メユ	① 学校CNと連携し、教科や活動のねらいに沿った外部人材の活用を進めることで、効果的に学習を行う	教務部	学校CNと連携し外部人材の活用し効果的に学習を行ことを継続していく。	【努力指標】 学校CNと連携し、教科や活動のねらいに沿った外部人材の活用を進める	A：よくできた B：おおむねできた C：どちらかといえばできない D：できない	A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員に調査